

量子論から解き明かす「人の世界とあの世」

物心二元論を超える究極の科学 京都大学名誉教授 岸根 卓郎

{ はしがき }

人は何のために生まれ、何のために死ぬのか？ 人は何処より来たりて何処に去るのか？ と「自問自答」し、「苦悶」する、そのような「苦悶の根元」こそが「私たち自身の心の世界の問題」であり「人類究極の命題」そして命題への対応は量子論の登場によって宇宙は人間の心なくしては決して「存在」しえないから見えない宇宙の姿も声なき宇宙の声も「人間の心」があってはじめて、見たり聞いたりすることが出来る、又人間の心こそが宇宙を想像するから人間の心なくしては宇宙の姿、存在、宇宙の声、心理も解明しえないことを科学的に実証した、しかもこの驚くべきことは2000年も前の「天人合一の思想」つまり宇宙の心と人間の心は一体であり「祈りは願いを実現する」と東洋の神秘思想は言った。

著者は「神よ～願わくば人類に {心の世界の扉} を開かせたまえ！と祈り本紙の課題を {量子論による心の世界の解明} においている」と

{ 見えない宇宙の探索はなぜ必要なのか }

最近の研究によって宇宙は「見えない宇宙の暗黒のエネルギー」が宇宙全体の69, 5% 素粒子など「暗黒の物質」25, 4%で通常の「宇宙物質」は僅に4, 9%しかも「宇宙の膨張」は加速されており4千年後の宇宙は現在の500倍になると推定。

{ ヒッグス粒子の発見 }

ヒッグス粒子とは空間を水飴のように満たして、他の粒子の動きに対してブレーキをかけ物質の重さの起源になったと考えられている素粒子の事で世界中の学者らが40年以上かけて探し求め、遂に発見された、存在の預言者ピーターフィックス氏に2013年ノーベル物理学賞を授与、ヒッグス粒子発見の「基礎理論」となったのは2008年にノーベル物理学賞を序された南部洋一郎氏で「宇宙の真空という空間は実は空間ではなくヒッグス粒子がギッシリ詰まった空間」であることが明らかにされた。

宇宙には見えない暗黒物質の宇宙が存在しており、その正体こそが「宇宙の心」と考えられ、それを解明する事こそが本紙の目的であると。

量子論の科学実験により見えない宇宙の暗黒物質の素粒子は「心を持っている」見えない人間の心を感じし「挙動」することが明らかにされた。 P 1

{ これからの800年間は東洋精神文明の時代到来 }

人類文明は有史以来、西洋の物心二元論の物質文明と東洋の物心一元論の精神文明の二極に分かれそれらが互いに [宇宙基本エネルギーリズム] の800年周期と [宇宙基本エネルギー法則] であるエネルギーと移動の法則により正確に800年間の周期で興亡を繰り返して今回が8回目の交代期にあたる。

量子論は見える三次元世界と物のみえない4次元世界の心の世界のあの世を分別せず、同時に研究対象にしているので仮説には一切依拠しないで観測と実験にのみ依拠する実用的な科学、従って仮説に依存する古典物理学に見るような欠陥はない、結局量子論の説く心の世界が理解できるか否かは物心一元論の科学観を素直に受け入れることが出来るか否かの読者自身の心の在り方の如何にかかっている。

{ 量子論の誕生～量子論が解明する心の世界 }

ミクロのあの世とマクロのこの世は全ての面で相依・相関・相補関係にあるがマクロの世界を研究対象とするニュートン理論や相対性理論はミクロの世界の説明は全くつかないので新しい理論としての量子論が誕生、量子論はミクロの世界にもマクロの世界にも通用する理論で、そのことを実証しているのが今日に見るIT社会の実現。

光の粒子性と波動性が明らかにされ量子論の誕生へと繋がりアインシュタインは「光に関する量子論の創始者」と呼ばれ、その功績により1921年ノーベル物理学賞を受賞。

{ 量子論を理解するための5つの基礎理論 }

量子論には始めに念頭に置くべき3つのパラドックスがある。

- ① ミクロの世界では電子運動は連続しない～マクロの世界は連続
- ② ミクロの世界では人間の心が観測対象を変化・創造したりする
- ③ ミクロの世界では全てが曖昧な世界でマクロ世界の因果律は全く通用せず

1. 光は波動性と粒子性を持っている

光は波であるが、そのエネルギーはそれ以上には分割できない最小の塊、粒子性である、光の波は障害物があっても背後に回り込めるが粒子は直進のみ、ミクロ物質の「電子」も同様の性質を持っている。

2. 電子も波動性と粒子性を持っている

但し、光の波と電子の波は全く異なる。

3. 一つの電子は複数の場所に同時に存在できる

4. 電子の波は観測すると同時に1点に縮む

人間が観測することによって電子の波は一転に収縮して消える

5. 電子の状態は曖昧である（不確定性原理）

ミクロの物質はその位置も速度も曖昧で、ある時間に於ける時間における位置も速度もただ一つには決まっていない

{ 空間の方が物質より真の実態である }

物質はマクロの世界ではどんなに硬く見えてもミクロの世界から見れば透け透けでありミクロの空間世界に同化して生滅させられているのでマクロの物質世界のこの世の方が虚像であることになる。

{ この世とあの世の相補性 }

物質世界のこの世が空間世界のあの世に、空間世界のあの世が物質世界のこの世に変わる、海水に浮かぶ氷をイメージすると。海水が空間で氷山が物質その波打ち際には常に氷山（物質）が解けて海水（空間）となり、その逆にもなるので両者は相補関係にある（水→水蒸気→空気の関係がより分かり易い）

物質は何回も分割できるが素粒子より細かく分割できないそれより小さく分割すれば全てエネルギー（波動）に還る、従ってこの世の万物はエネルギーの変形に過ぎない、そしてこの世の万物は人間を含め宇宙の意志（神）が刻印されたエネルギー（波動の変形）に過ぎない。

仏教では「三界は唯心の所現」つまりこの世は人の心の現れに過ぎないと、説いているがその意味は量子論の主張する「この世は人の意識が創り出した想念の世界である」と一致する。

仏教では「輪廻転生の思想があり人は解脱しない限り、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上の六道の間を永遠に輪廻転生すると説き更にその上位に悟りの世界としての声聞・縁覚・菩薩・佛の四聖道があり、この世界に行けるのは人間だけである」としている。

{ 量子論が解き明かす世界観 }

1. この世が存在する限り必ずあの世も存在する

2. あの世とこの世は繋がっていて、しかもあの世がこの世に投影されている

3. この世とあの世はその境界領域において互いに干渉しあっている P 3

4. この世が虚像でありあの世が実像である
5. 物質世界のこの世が空間世界のあの世に変わり、空間世界のあの世が物質世界のこの世に変わる
6. 人間は何故生きている内は見えるのに死ねば見えないのか
7. 人間にとってあの世の宿命はこの世の運命である
8. 人間の意識がこの世を創造する
9. 万物は空間に同化した存在である
10. 空間の方が物質より真の実態であり空間こそが万物を生成する母体
11. 万物は観測されるまでは実在ではない
12. 未来が現在に影響を及ぼす
13. 素粒子はあらゆる形状や現状を生み出す素因である
14. この世は全てエネルギーの変形である
15. 宇宙の意志が波動を通じて万物を形成する
16. 祈りは願いを実現する

{ 半導体の発見 }

量子論がこの世にもたらした功績は極めて大きい、テレビ・携帯電話・GPS・DVD・パソコン・デジタルカメラ・MRI・浮上式リニアモーターカー

{ 量子ビットの発見 }

半導体ビットでなく量子ビットを利用すると、コンピュータが基礎研究の段階で現在のスーパーコンピュータですら1000億年以上もかかる1万桁の整数因数分解を僅、数時間で終わる、量子コンピュータの出現は人類の未来社会をして想像を絶するような高度文明社会へと導く、更に人間究極の課題とする「心の世界の扉」を開き人類に「真に生きる希望の灯火」を灯してくれる

2012年ノーベル物理学賞がなんと素粒子物理学者セルゼ・アロシュ氏に対し量子コンピュータの開発に道を開いたとして授与された、今世紀中にも可能になることを示す基本的な実験に成功したと。

{ 心理時計 }

1. 人間は生理的興奮で体温が上がる程心理的に時間の流れを遅く感じる
2. 時間の経過に注意を向ける程時間の流れを遅く感じる
3. 時間の経過中に起こる出来事が多い程時間の流れを遅く感じる
更に複雑で出来事が強烈な程時間の流れを遅く感じる

{ 年齢時計 }

人間は年を取る程時間の経つのが早く感じる、その理由

* その人が自分の人生で経験してきた時間の長短による (年齢差)

5歳児にとっての1年は五分之一と長い時間になり長く感じ、80歳の老人にとっては人生の80分の一だから短く感じる

* 時計時間の縛られ方

子供は時間に縛られない、時間は何時でもあると、従って長く感じ、大人は時間のことを気にする、時間に追われると思うから時間の経つのが速いと感じる

* 見通しの持てる時間幅の違い

ある研究では大学生のそれは約10年、中年で30年、老年では更に長い

* 時間展望の逆転

あと何年生きられるか、余生の事を強く意識する分、時間が早く過ぎ去る

{ 心拍数や呼吸数から見た寿命時間 }

全ての哺乳類は心臓が15億回で寿命が尽きる、同様に呼吸数3億回、人の場合、心拍数1分間に60回・心周期は約1秒、身体の小さいハツカネズミは1分間600回、象は約3秒

体重と心周期は四分のーに比例する、寿命も体重の四分のーに比例する。

それぞれのサイズに合った同じ長さの宇宙寿命が与えられている。

なんと神秘的でなんと厳肅、なんと感動的なことか

{ 心の時間をいかに生きるか }

宇宙からの物理的時間としての寿命時間が万類に平等に与えられている中で、その寿命時間を宇宙より心の時間として認識できるのは唯一人、人類のみである、神の心として如何に智慧を生かして有意義に生き抜くかを問うことも又、人類にとって重要な責務であり、それを問うことも又、量子論にとっても重要な課題である

{ 幸福とは }

幸福度 = 所得 ÷ 欲望 = 物 ÷ 心 であり分子を大きくすると幸せになるが、その一方で分母の欲望も大きくなるから限度がない。

2500年前に老子は「知足安分の思想」

足る・を知りて、分に・安んじる、人間が常に高い幸福度を享受するためには物心ともに豊か、そして衣食足りて礼節を知る、真の意味での心の時代が遂にやってきた。

{ 人類の果てしなき夢を叶えてくれるもの }

人類は根源的に宇宙の時間的存在である、人類にとって究極の夢 { 心の世界の解明 } も又、人類の誰かによって、いつかは必ず実現できると筆者は固く信じている。

以上